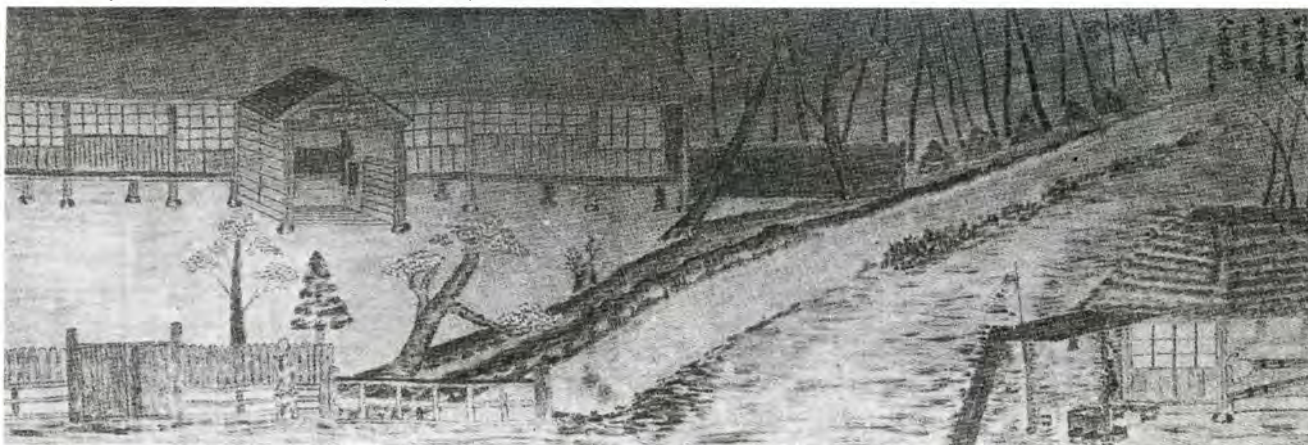


品川の学校



▲ 開校当時の京陽小学校

寺子屋・私塾から小学校へ

江戸時代には武家の教育を行う官学や藩校に対して、庶民が教育を受ける寺子屋や私塾が開かれ、幕末になると広く普及した。寺子屋では、教師は師匠、生徒を寺子といい、手習いと読みが中心で、後にそろばんも教えるようになった。この寺子屋や私塾が明治5年の学制発布後に小学校開設の基となり、また、近代の私立学校の母体となったのである。

まず、明治6年頃、品川^{かちしんしゅく}歩行新宿の法禅寺に開かれていた寺子屋塾が「第二中学区第六番公立小学品川学校」の名で認可され、翌7年3月20日に品川の最初の公立学校として発足した。続いて、12月に城南学校、翌8年には大井村に大井学校がともに寺を借りうけて開校した。翌年9月に鮫浜学校を八幡神社の境内に創設した。

また、同11年になると日野学校が上大崎村の徳蔵寺を借りて4か村の協力により設立されるなど、次第に整備が進んでいった。

荏原の地区では、同11年に桐ヶ谷の民家で始まった桐溪学校と中延・小山村の中山学校が併合して京陽学校を開いた。翌12年には、下蛇窪の伊藤塾が創始者の杜松^{としやうさいけいこ}斎景湖（伊藤清一郎）の名を冠した公立杜松学校となった。いずれの学校の設立も、当時の人々の先見と努力の賜物であった。

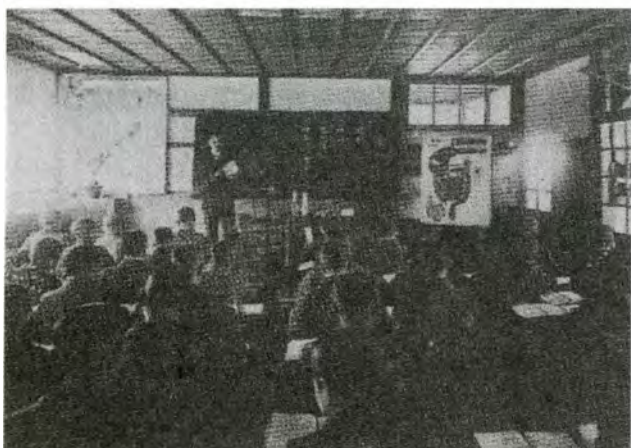
教育制度の改革

明治5年の学制発布で体制は一応整ったが、授業料が高いため就学できない児童が多く、同19年の小学校令で義務制が確立してもかなりの不就学児童がいた。義務教育に対する親の理解の不足、家事手伝いの必要や月謝納入の苦しさなどが主な原因であった。

下等小学4年・上等小学4年で始まった学制も、同12年の教育令により初等科3年中等科3年高等科2年の8年制となる。同19年の小学校令ではそれぞれが尋常小学校、高等小学校と名称が変わり、品川・城南の2校に高等科が置かれ、尋常高等小学校と呼ばれた。同33年には、尋常小学校を4年制とし、2年制の高等小学校の併設を奨励、授業料無償の原則により父母の負担軽減を図った。同41年には、尋常小学校を6年制に延長し充実に努めた。



▲ 城南小学校の運動会（明治40年）



▲ 品川小学校での理科の授業（大正4年）



▲ 第一日野小学校 戦災後のバラック校舎での授業（昭和22年）

人口の急増と学校の増設

大正時代に入ると、発展を続けていた品川町以外の地域にも、次第に住宅や工場が建てられて多数の人々が住むようになった。大正12年の関東大震災は都心の人口を周辺地区に移すこととなり、とくに荏原町（旧平塚村）は急激な人口増加を示し、大正15年にはこの地に小山・大原・宮前の3小学校が同時に開校するほどであった。

昭和になっても人口の急増が続き、昭和3年度には、御殿山・大間窪・源氏前・第二延山・後地の5小学校が開校したが、児童があふれるほど多く、当座を二部授業でしのいだ。

昭和7年東京市編入後もなお人口が増加し続けたので、敷地の入手に苦労しながら、昭和9年には、浜川・中延・戸越・旗台・平塚（昭和21年に廃校となり、26年に新しく開校する）の5校を開校した。

昭和16年の国民学校令で小学校の名称が国民学校と改まり、義務教育年限の延長も計画されたが、実施には移されなかった。この時、高等科だけの大崎・南功の国民学校が設置された。

昭和19年には、戦争の激化に伴い学童疎開が実施され、品川の学童も親元を離れた生活を送るという体験をした。（解説シート№6「品川の学童疎開」参照）

また、多くの学校が戦災にあい、他校を借りての授業や青空教室が戦後も続き、なかには人口減などのため廃校になった小学校もあった。

六・三制の発足

昭和22年、教育基本法・学校教育法が制定され、新しい教育理念を掲げて六・三制が発足し、小学校6年・中学校3年の9年間の義務教育が行われることになった。とくに、小学校等に同居して「零からの出発」をした10校の中学校は苦難の連続であった。

昭和28年頃から、いわゆる「ベビーブーム」のため児童数が激増、二部授業やすし詰め教室で対応して深刻な教室不足をのりこえてきた。やがて、経済の高度成長と技術革新などの社会の進展に合わせて、教育条件の整備・充実に力が注がれ、同時に教育課程の改訂が進められて、教育内容も量から質への転換が図られた。

昭和42年、初の区立幼稚園として城南幼稚園が開園、次々と増えて8園となった。同53年には、御殿山幼稚園で2年保育を始めている。

また、初の心身障害学級が昭和27年中延小学校に誕生して以来、同30年には浜川中学校にも開設され、心身障害教育の充実を期した。同49年になると、心身障害児童・生徒の完全就学が実施され、平成17年現在小学校12校、中学校5校が設置されている。さらに日本語学級も小中各1学級設置されている。17年現在学校等の設置数は、幼稚園は区立9園、私立21園、小学校は区立40校、私立1校、中学校は区立18校、私立7校となっている。

※取り上げた学校は、幼稚園、小・中学校に限定しました。